

昭和33年の鶏卵市場を顧みて

大阪経済事務所
小郷文雄
(昭和33.12.5)

本年上半期の鶏卵価格は、前年同期を10～15%下廻る安価で、これは昭和29年下期から30年上期にかけてあらわれた不況以来実に3年目の現象でありました。

本年4月1日現在の全国養鶏羽数は3,983万羽で、前年同期の3,660万羽に比べ8.8%の増加を示し、鶏卵生産量は1月から6月までの半年間に42億2,411万個で、前年同期に比べ11.8%の増加ぶりでありました。

地域別に鶏卵生産の状況を調べてみますと、東日本では全国生産量の45%を占め、前年同期より10.7%増え、東海地方では全国生産の12.1%で、前年同期より12%増え、西日本では全国生産の29.3%で、前年同期より11.6%増し、九州地方は全国生産の13.6%で、前年同期より17.7%増しで九州地区が、本年最高の増加率を示し、東日本の伸び率が一番低いことが判ります。これを数年前と比較してみますと、昭和29年頃には、東日本が全国生産の47.4%、東海地区が19.7%、西日本が25.9%、九州地区が13.6%の生産割合ですから、最近では西日本及び九州地区の鶏卵生産の伸び率が、東日本より顕著であることが認められます。

又最近の鶏卵生産量は、昭和29年頃に比べ45%近くの増加を示し、西日本地方では60%以上の増加率であります。

そのようなことから本年上期の鶏卵市況は、家庭消費が前年同期の購入金額を5%上廻り、マヨネーズ原料としての需要を上廻って、市況は常に低調のまま推移したのであります。

大阪仲間取引値の各月間平均相場を前年同期と比較してみますと、

1月は177円(1kg当り)で前年同期に比し kg当り22円安

2月は183円(")で前年同期に比し kg当り11円安

3月は156円(")で前年同期に比し kg当り43円安

4月は163円(")で前年同期に比し kg当り23円安

5月は161円(")で前年同期に比し kg当り27円安

6月は164円(")で前年同期に比し kg当り38円安

7月は193円(")で前年同期に比し kg当り27円安

という具合に本年上期は各月共平均してkg当り30円近くも前年同期を下廻ったのであります。

しかしこの間生産地では卵価安に対応して、駄鶏の淘汰が積極的に行われたため8月相場は218円となり、前年同期の平均227円に9円差と迫り、更に9月には8円差となり、遂に10月には228円となって前年同期を19円上廻り、11月には212円、前年同期の19円高を示現しております。

このように本年下期となって10月を転機にジリ高歩調に転じ、年をあけることとなります。

そして先行としては、12月20日を中心に菓子加工業者等の買込みもあるので、年末相場230～240円を予想していますが、本年は昨年に比べ上期と下期の鶏卵市況の足どりは全く逆で、前年は春高の秋安、本年は春安の秋高相場を示したことになります。

さて、阪神地区の鶏卵業者仲間では、そろそろ明春の卵価予想が噂されていますが、大勢としては1月平均価格185円から190円と見る向きが多く2月以降6月まで前年需要量の30%増しの買入計画をもつマヨネーズ加工方面の積極的な買込み等もあるので前年同期の7～10%程度の高値を予想しております。

ところで昭和33年中の岡山県の鶏卵出荷の現状を振り返って見ることにいたしましょう。

御承知のように最近岡山県の鶏卵の系統共販の伸びは著しいものがあり全国鶏卵業界の注目を集めております。本年4月から10月までの半年間の系統出荷量は13kg詰めで20万9,645箱でそのうち1万1,095箱は全販連大阪支所の幹旋で東京市場に他は全量阪神市場に出荷されています。これを前年同期に比べま

岡山畜産便り1959.01

すと60%の増加率であります。従ってこのまま進めば1ヵ年には35万箱を突破することは確実に系統共販が全移出量の40%を占めることとなります。

参考までに主要な競合県の共販実績を見ますと静岡県12万3,743箱、愛知県10万9,700箱、長野県10万2,700箱で、こと系統共販体制に関する限り岡山県が全国第1位の実績を持ち第2位の静岡第3位の愛知を大きく引き離しています。

このように量的に首位を占めたことは出荷統制や買手市場に対する発言権の増加等で非常に有利になります。この上は商品価値の向上を図るため量目不足を解消し、大中小の選別を厳重にして汚染卵の処理等も合理化して名実共に日本一の鶏卵生産地となるべく努力いたしたいものです。

そして前にも申し上げたように、西日本一帯の養鶏は逐年盛んとなり従って関西市場は過剰傾向を強めて参りましょうから、岡山県の卵は単に阪神の需要を潤おすばかりでなく東京市場を始めとして、全国各市場に当然販路を求めべきでそのためにも品質改善に一層の努力が望まれます。

最後に岡山県の養鶏家の皆さんに新春の御年玉が用意されています。それは明春2月からマヨネーズ原料用として阪神地区有力メーカーから工場買入量の2分の1に当る20万貫以上の岡山卵の納入が決定しました。

取引条件も容器回収方法の合理化等によって本年納入分より一段と有利な途が拓けています。

それでは養鶏農家の皆さんよりよいお年をお迎え下さい。一以上一